



夕刊新報 十二月二十二日発行

最近の大衆文學

上

最近の大衆文學について、私に感ずることが多くなつた。先づこれを大衆文學が、その旗印のもとに社會の表面にあらはれてきた當時から見るならば、一定の時には、独自の表現形式が完成されつゝあるといつて差支へないであらう。

常陸華川村

島田忠夫

○道のへに穿てる斜坑おぼつかなき細きコソソ
垂りてウキチチ捲けり

○坑木に伐り荒されし山鏡々中妻小津田見つ
過ぎ来ぬ

○難賃商理境店は見しが家乏し懸まんとして小
學校に寄る

○あらそひて鴉なきたつ廣坑より灰くろくろと
崩りたる山

○コンクリートの橋たかだかと架りある川夕づ
きて釣る人を見ず

○黄に濁る水が幾すも流れこむ川の淀には河
鹿鳴こゑ

○田ふかき遊びにいたく疲れたり野風呂焚く火
をこはしみ歸る

應募規定

- 歌詞 郷土小唄としてローカルカラーの豊かなもの
- 用紙 四百字詰半紙判原稿用紙
- 筆数 一人一稿限り
- 姓名 住所姓名、或は筆名、は封書のみに自署し原稿には絶対記せざる
- 宛名 平町田町一六番城新聞社「七夕」
- 締切 十月末日
- 発表 十一月下旬

平音頭「七夕祭」歌詞再募集

賞金貳拾圓 (入選一篇) 賞金拾圓 (佳作五選)

- 選者
- 新妻久満夫
 - 小山田滋
 - 渡邊何
 - 高久晚
 - 白木英

投票所 秋雨の傘並べある廊下 かな 裏山の百舌鳥の高音に 別れかな

偶成集

佐藤惣之助

若き日、よの 若き日、よの 若き日、よの

若き日、よの 若き日、よの 若き日、よの

若き日、よの 若き日、よの 若き日、よの

若き日、よの 若き日、よの 若き日、よの

若き日、よの 若き日、よの 若き日、よの

若き日、よの 若き日、よの 若き日、よの

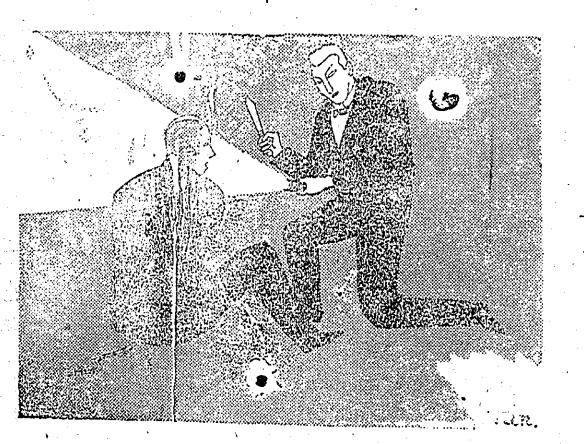
小 誰が殺したか

水谷準作

第三の殺人 (三三) 誰が殺したか

誰が殺したか 誰が殺したか 誰が殺したか

「三浦村、追へ」 怪しげな男を組まざるが、何故この赤城... 赤城も腫氣となつて叫んだ。山道代君... 日頃の着せきも流石にない。お、それまでして... 胸から絞るやうな盛だつたから僕は... 殺さうと思... 三浦村刑事は胸のあたりにつたんだ。



赤城は口惜げに唇を噛んで、赤城探偵は大きく肩を息をしながら、組まされた男を... 赤城は口惜げに唇を噛んで、赤城探偵は大きく肩を息をしながら、組まされた男を...

諸橋外科醫院

電話 四六四 平町新川町二七

内臓外科科科線
皮膚病柳病
花柳病レントゲン

諸橋鐵彌
義弘

平牛乳舎

第一質品 電話 八六二番

平町・九品寺前

桑原商店

特約店 電話 三六〇番

株式会社現物賣買 三共商會賣買

西村屋藥舖

活動攝影機 ¥18.00
活動映寫機 ¥17.00

平二・電三

平屋賣店

製造發賣元 小川郷録前

磐城代表的の土産品

高島屋洋服店

洋服大特賣

男女用學生冬服豊富に取揃

平會館

生花教授 須藤まつ

池ノ坊 生花を懇切丁寧に御教授いたし... 平町四丁目和泉屋旅館

高久病院

外科 小兒科 皮膚科 泌尿科 耳鼻科

電話 五三三番

酒病家

親子井

電話 一七二番

自轉車

リヤカー

フタバ商會

小兒科 志賀醫院

平町南町五〇番地

電話 一六二番

